HONDA ホンダクリオ東葛

会社説明会

株式会社ホンダクリオ東葛

JASDAQ　2754

2006年11月27日

北小金店

柏16号店

五香店

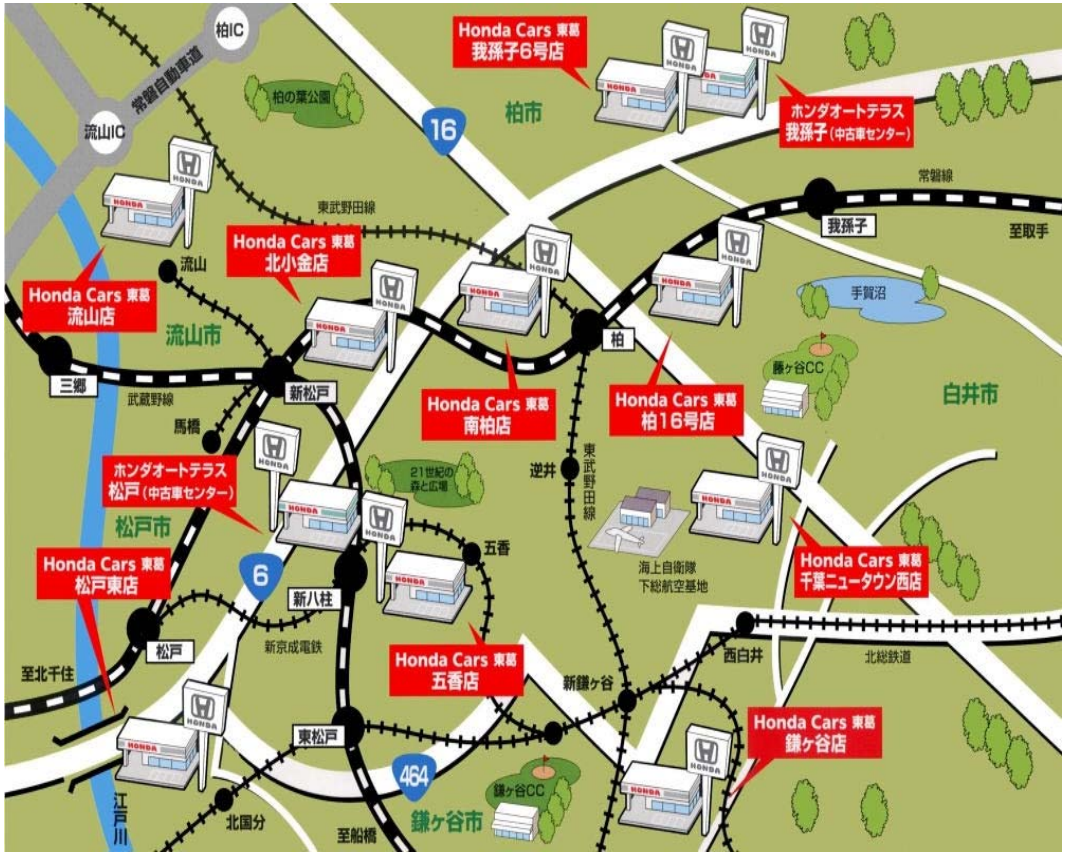
千葉ニュータウン西店

鎌ヶ谷店

オートテラス松戸

我孫子6号店

オートテラス我孫子



南柏店

流山店

松戸東店

東葛エリアを１１拠点でカバーするネットワーク

HONDA ホンダクリオ東葛

Contents

- 企業紹介
- 事業部門の構成
- 平成18年3月期決算における当社の特徴、優位性
- ホンダ販売店の歴史～合併にいたるまで
- 持株会社体制への移行ー新たな事業展開へ
- 平成19年3月期中間決算及び業績予想

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

HONDA ホンダクリオ東葛

企業紹介

企業概要

- 社名　　：**株式会社ホンダクリオ東葛**
- 設立　　：昭和44年1月
- 資本金　　：210．3百万円
- 従業員数　：連結140人、単体81人
- 連結対象　：株式会社ホンダベルノ東葛　（100%子会社、資本金50百万円）
- 事業内容　：自動車販売関連事業を中心とした4つの柱
  - ①　新車販売
  - ②　中古車販売
  - ③　サービス（点検整備等）
  - ④　その他（自動車ローン、自動車保険等）

（2006年9月末現在）

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

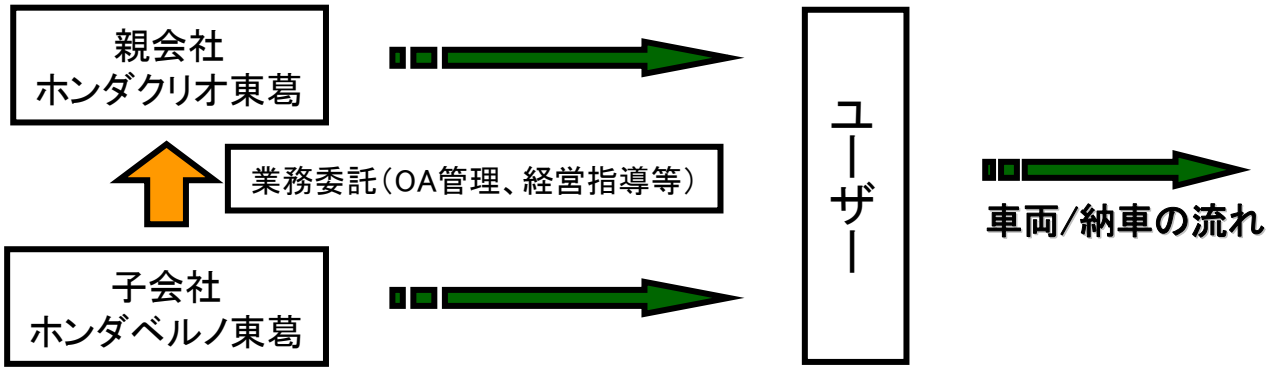
■事業部門の構成

新車販売部門

- 新車販売は、本田技研工業株式会社の新車を販売
- ホンダクリオ東葛：クリオ系列として、5店舗を運営
- ホンダベルノ東葛：ベルノ系列として、4店舗を運営
- 平成18年3月よりホンダ全車種を取扱い

＜　取　扱　車　種　＞
レジェンド、アコード、アコードワゴン、S2000、CR-V、インスパイア、エリシオン、エディックス、オデッセイ、 ステップワゴン、ストリーム、フィット、フィットアリア、モビリオ、モビリオスパイク、エアウェイブ、パートナー シビック、シビックハイブリッド、ライフ、ザッツ、バモス、バモスホビオ、ゼスト、アクティ、アクティトラック

事業系統図

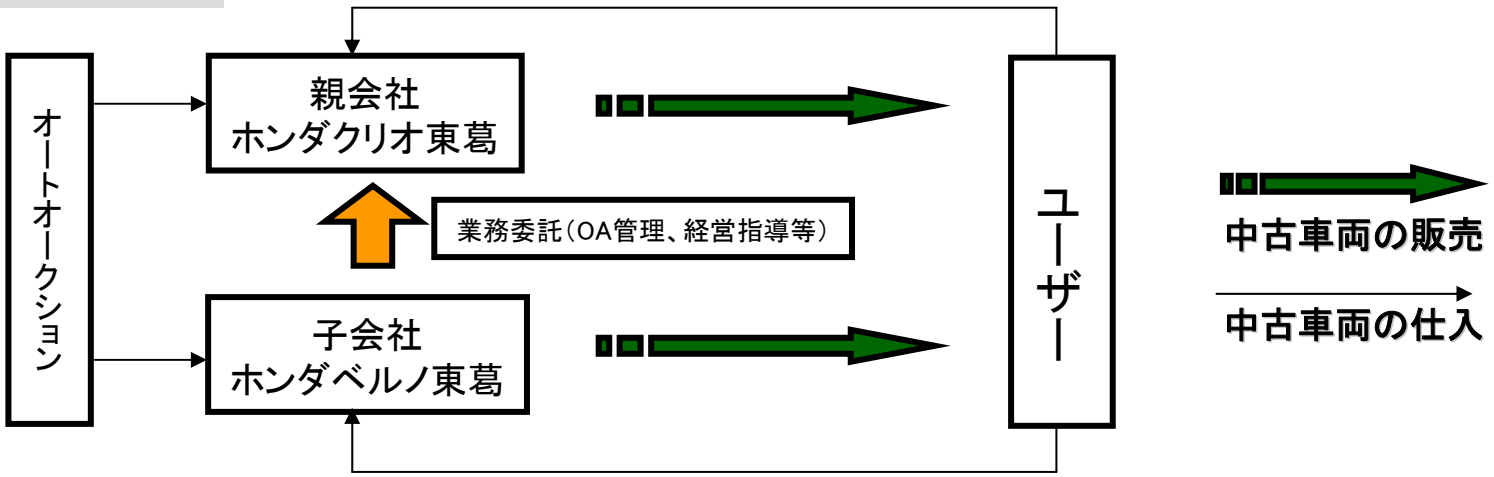


ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

中古車販売部門

- ホンダクリオ東葛：1店を運営
- ホンダベルノ東葛：1店を運営
- 主として、本田技研工業の中古車を店舗において販売
- 一部、中古販売業者への販売を行う。
- 商品の仕入：新車販売時の下取り、オートオークション

事業系統図



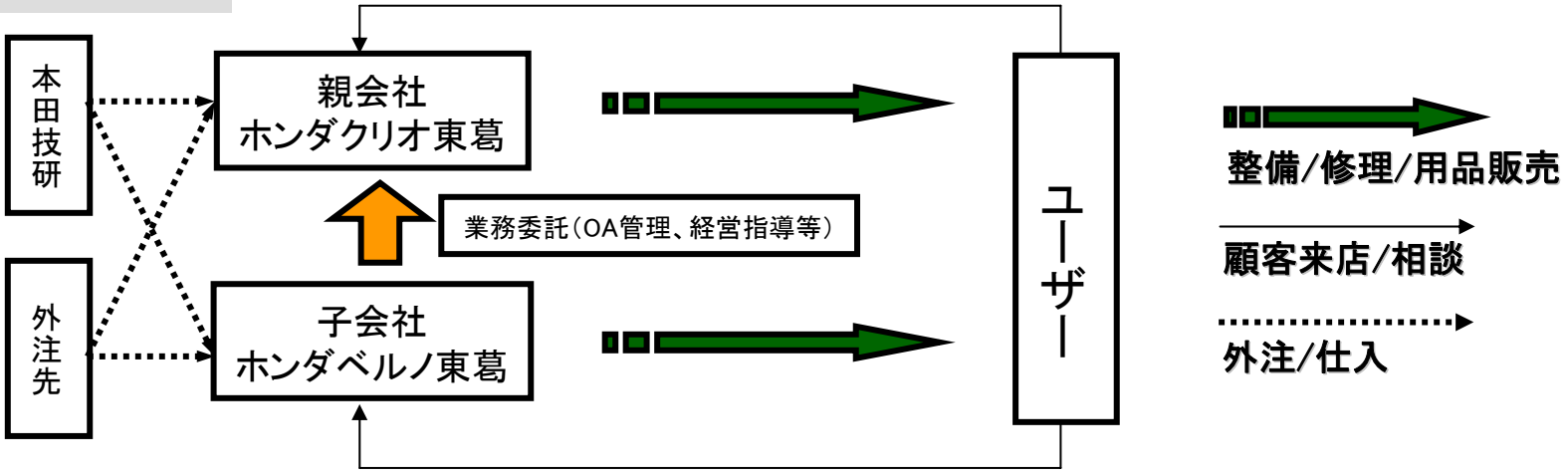
ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

サービス部門

- 自動車の車検、12ヶ月点検整備、および鈑金修理等の整備全般
- 自動車用品の販売
- 工場：クリオ系列6工場、ベルノ系列4工場
- 内訳：陸運局指定工場（クリオ5、ベルノ2）、認証工場（クリオ1、ベルノ2）
- 特徴：環境問題にも取り組んでおり、本田技研工業の「ベストグリーン」店に認定

*ベストグリーン：本田技研工業の独自制度であり、環境保全に貢献していると認定する店舗のうち、最上級ランクに位置付けられているもの。

事業系統図



ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

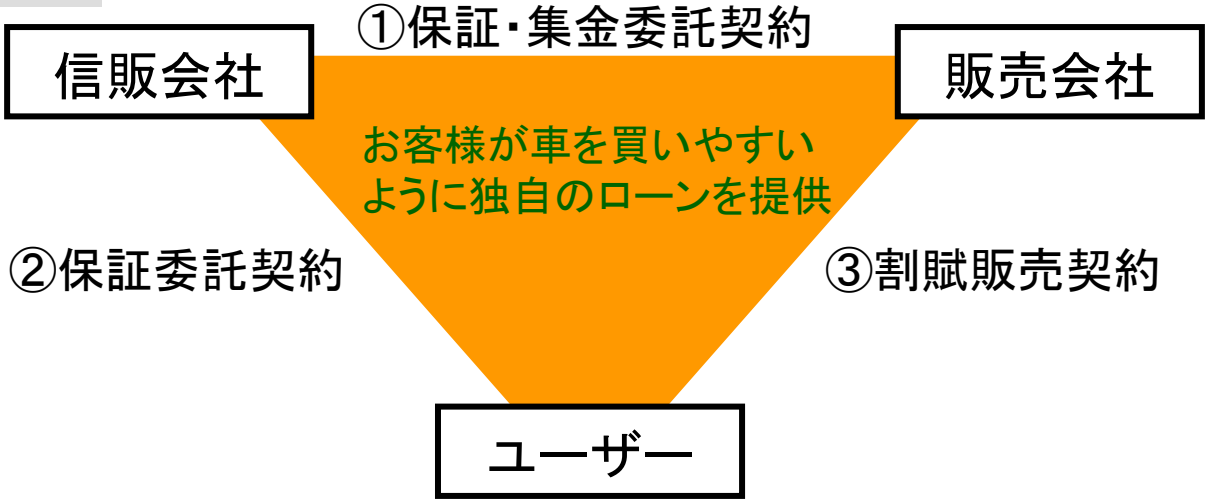
その他部門 ＜ローン事業＞

当社グループの中に、「信販会社」があるイメージ

■ 主力商品：自動車ローン「ホンダ東葛オリジナルローン」
（ローン手数料収入）

一般の自動車ローンが「立替払い方式」を多く採用しているのに対し、当社では「集金保証方式」を採用し、収益の安定確保につなげています。

事業系統図



ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

その他部門 ＜ローン事業＞

Tohkatsu C-LOAN ゆとりの新車購入

Honda Cars 東葛はお客様のライフスタイルに合った新車購入プランをご提案します。

3年後にご自身に合った3つのプランをお選びください。

A Plan
新しいお車にお乗り換え

お乗り換えの際、今までお乗りのお車を査定し、残価を返済。査定価格が据え置き金額を上回った分は頭金に充当できます。

※走行距離、車両状態によっては差額をご負担頂く場合がございます。また、差額分は次車ローンに組み込むことができます。

B Plan
そのままお乗り続ける場合

残価を一括でお支払いいただくか、残価を再度ローンにてお支払いいただきます。

C Plan
お車を査定の上ご返却

今までお乗りのお車を査定の上で買い取ります。

※走行距離、車両状態によっては差額をご負担頂く場合がございます。また、査定金額が据え置き金額を上回った場合はご返金致します。

ディーラーだからアフターサービスも万全です!!

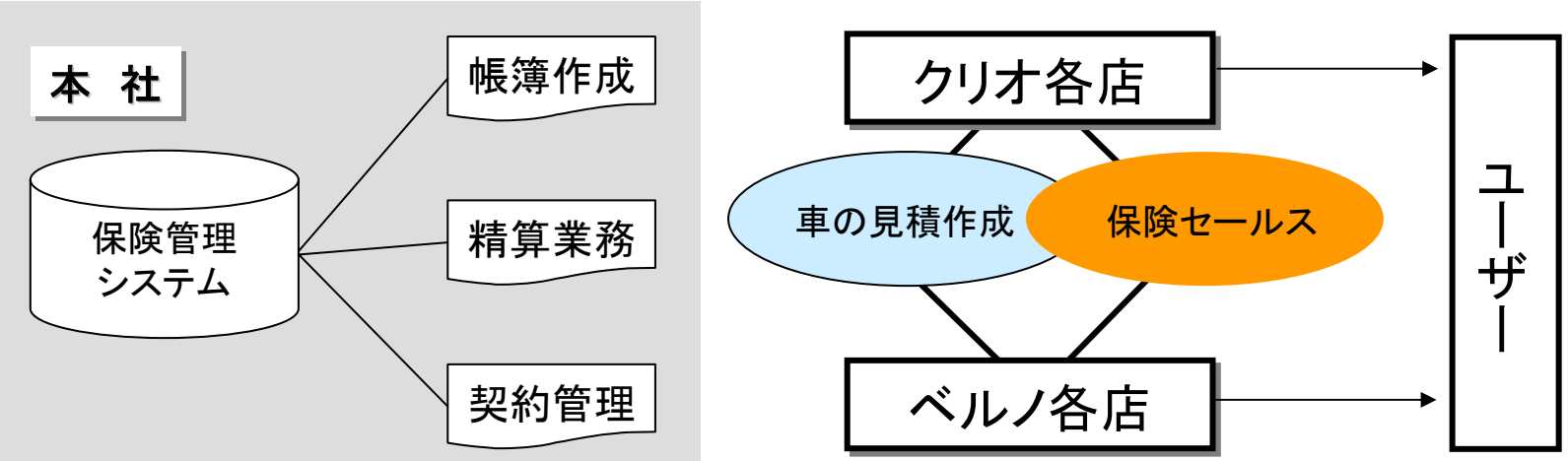
上記はCローンのシミュレーションの一例です。
当社Cローンは**据え置き期間2年・4年・5年**でのご利用も可能です。また、据え置き金額の設定も50%以上でも可能です。お客様のライフスタイルに合ったローンプランが実現できます。
詳しくは当店営業スタッフまでお問い合わせください。

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

その他部門 ＜保険事業＞

- 主力商品：自動車任意保険（保険手数料収入）
- 見積書の情報を生かして、自動車の任意保険をセールス
- あいおい損害保険株式会社の損害保険代理店の最上級種別である「J特級」を平成15年12月に取得

事業系統図



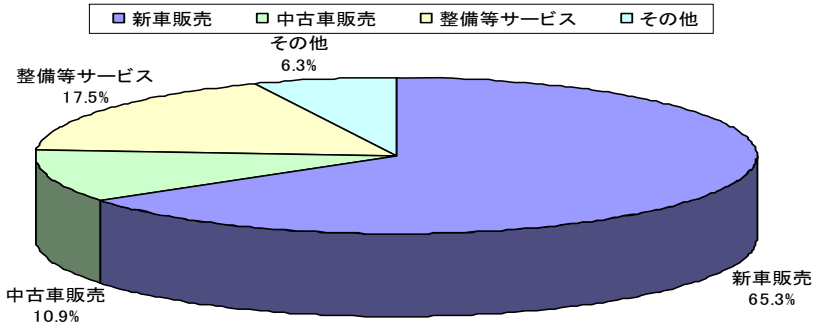
ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダクリオ東葛

ビジネスモデル 《部門別構成比》

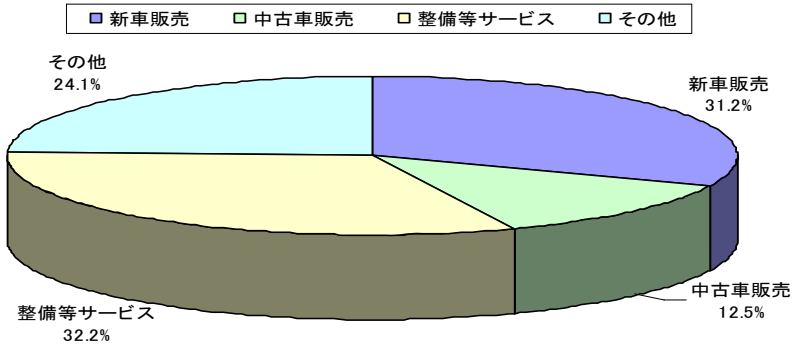
販売単価が高額である新車販売部門が売上高に付いては大きな割合を占めるが、粗利益構成比ではサービス部門と同等となり、ローンや保険を中心としたその他の部門と共に新車販売以外の収益が大変重要である。

《部門別売上高(連結)》



	売上高 (単位:百万円)		
	平成17/3期	平成18/3期	構成比
新車販売	4,966	4,719	65.3%
中古車販売	853	786	10.9%
整備等サービス	1,267	1264	17.5%
その他	460	453	6.3%
合計	7,547	7,223	100.0%

《部門別粗利益(連結)》



	粗利益 (単位:百万円)		
	平成17/3期	平成18/3期	構成比
新車販売	519	479	31.2%
中古車販売	193	192	12.5%
整備等サービス	492	495	32.2%
その他	382	370	24.1%
合計	1,587	1,537	100.0%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

HONDA ホンダクリオ東葛

■平成18年3月期決算における当社の特徴、優位性

ホンダクリオ東葛

財務ハイライト　Ⅰ．財務ハイライト

Ⅰ．平成18年3月期決算ハイライト（連結）

単位：百万円

	平成16/3期	平成17/3期	平成18/3期
売上高	6,930	7,547	7,223
営業利益	378	470	427
経常利益	395	459	430
当期純利益	221	228	249
総資産	6,675	6,931	6,878
純資産	1,805	1,966	2,166
1株当たり当期純利益（円）	41.88	47.25	46.76
1株当たり純資産(円)	369.79	407.04	443.82
1株当たり配当金（円）	10	10	10
総資本経常利益率	5.8%	6.8%	6.2%
株主資本比率	27.1%	28.4%	31.5%
売上高経常利益率	5.7%	6.1%	6.0%
株主資本当期純利益率	11.7%	12.1%	10.9%

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダクリオ東葛

財務ハイライト　Ⅱ．貸借対照表（主な項目）

	連結（単位：百万円）		前年同期比
	平成17/3月期	平成18/3月期	
流動資産合計	4,083	4,081	99.9%
現金及び預金	701	830	
受取手形及び売掛金	2,914	2,872	
固定資産合計	2,848	2,796	98.2%
有形固定資産	2,318	2,278	
長期貸付金	149	142	
差入保証金	193	188	
総資産	6,931	6,878	99.2%
流動負債合計	3,973	3,934	99.0%
短期借入金	2,859	2,836	
固定負債合計	991	776	78.3%
長期借入金	278	189	
資本の部合計	1,966	2,166	
負債･資本合計	6,931	6,878	99.2%

受取手形分
2,689百万円

※参考　当社は自動車ローンを自社で取り扱っておりますが、この代金の集金業務を株式会社オリエントコーポレーションに委託しています。その際お客様のお支払内容に合わせた金額の手形を振り出して頂き、割賦代金の総額を一括して受け取っています。

この内、手形を担保とした借入金は
2,689百万円

※参考　当社はこの手形を金融機関に担保として差し入れ、同額の融資を受けて運転資金として使用しています。この融資の返済は差し入れた手形の月々の落ち込み額を充当しています。仮にこれを表の上で相殺消去しますと株主資本比率が現在の31.5%から約51.7%と向上しますが、当社グループではこの「受取手形」と同額の「短期借入金」を両建てにすることで、リスクの金額を明確にしております。

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダクリオ東葛

業界平均との収益力比較

主要財務データ比較

収益力（経常利益率）において、全国平均対比、大幅に上回っている。

	当社		他社（全国1，311社平均）	
	2006/3期	売上高対比	2006/3期	売上高対比
売上高	7,223	—	10,091	—
売上総利益	1,537	21.3%	1,538	15.2%
営業利益	427	5.9%	124	1.2%
経常利益	430	6.0%	123	1.2%
当期純利益	249	3.5%	93	0.9%

日本自動車販売協会連合会より

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダクリオ東葛

業界平均との収益力比較

主要財務データ比較

収益力（経常利益率）において、業界平均対比、大幅に上回っている。

	当社		他社（全国H販売店1，012社平均）	
	2006/3期	売上高対比	2006/3期	売上高対比
売上高	7,223	—	1,694	—
売上総利益	1,537	21.3%	369	21.8%
営業利益	427	5.9%	9	0.5%
経常利益	430	6.0%	12	0.7%
当期純利益	249	3.5%	6	0.4%

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダ販売店の歴史～合併にいたるまで

3チャンネル体制の構築

HONDA

- 四輪車生産開始当初は当社も含め販売チャンネルは1チャンネル。
- どの販売店もすべての車種が販売可能。

ベルノ店の立ち上げを期に販売車種の異なる3チャンネル化を推進

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

クリオ・ベルノの2社体制

株式会社ホンダクリオ東葛

CLIO

レジェンドを中心とした上級志向のチャンネル

別会社：株式会社ホンダベルノ東葛

VERNO

プレリュードなどのスポーツ志向のチャンネル

当社においてはクリオ店、ベルノ店の2社を運営

PRIMO

時自動車を中心としたファミリー志向のチャンネル

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

専売車種の不足

販売車種の異なる3チャンネルとして展開してきたが、しだいに専売車種の安定供給が困難。

⇒一部のみ形を変えた姉妹車が数多く登場

アコード（クリオ店扱い）

アコードの姉妹車、アスコット（プリモ店扱い）

インスパイア（クリオ店扱い）

インスパイアの姉妹車　ビガー（ベルノ店扱い）

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

専売から併売の時代へ

＜ホンダの併売車＞

平成6年のオデッセイの発売以降、ある程度販売を見込める車種はほとんどが併売車に！！

オデッセイ

ステップワゴン

ストリーム

エアウェイブ

フィット

平成17年の当社の販売実績においても・・・

併売車の割合が90%前後まで拡大！！

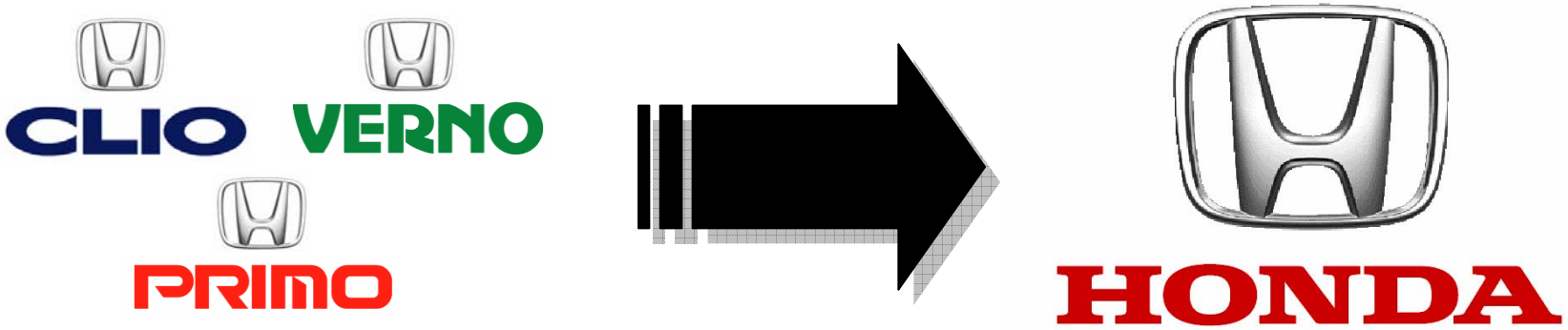
ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダカーズ東葛誕生

＜ホンダの政策転換＞

■ チャンネル政策の廃止 ⇒ クリオ、ベルノ、プリモからHonda Carsに統一

⇒ 平成18年3月より全車種販売開始へ



上記を踏まえ、当社においてもクリオ系、ベルノ系の2社を運営していくメリットは消失

＜10月1日付けでホンダベルノ東葛を吸収合併＞

ホンダ車なら全てHonda Cars東葛へ→マーケットへ分かりやすさの提供

管理部門の統一により、コスト削減、経営資源の集中

マーケット需要に対する的確な販売政策・企画の立案・徹底

宣伝広告の2重構造の解消により、効果的かつ効率的なプロパガンダ政策の実現

ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

HONDA ホンダクリオ東葛

■ 持株会社体制への移行ー新たな事業展開へ

HONDA ホンダクリオ東葛

持株会社制度の導入へ

【現　状】

（株）ホンダクリオ東葛
（屋号：ホンダカーズ東葛）

新車：全てのホンダ車
中古車：全てのホンダ車

【2007年4月2日予定】

（株）東葛ホールディングス（社名変更）
（純粋持株会社）

（株）ホンダカーズ東葛

新車：全てのホンダ車

現在の新車9拠点を

承継し、新車販売専門

会社として運営

（株）ティーエスシー

中古車：全ての車

現在の中古車2拠点

を承継し、ホンダの中

古車を販売。さらに

新たな店舗展開で、

全てのメーカーの

中古車を販売、運営

導入の目的・狙い

現状の体制においても安定した収益性、株主配当は維持できると確信しているが、本田技研工業（株）より「ホンダ」の名称を使用していることもあり、その成長戦略は範囲の狭いものでありました。この持株会社制度の導入により事業運営上の自由度が高まり、新規事業等への進出も視野に入れ、マーケットの環境変化に対応できる経営管理体制を構築することで自動車販売のみに頼ることなく安定かつ継続的に収益をあげられる強固な企業体質の構築が可能になると判断いたしました

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

中古車事業の強化（1）

＜新車販売時の下取車の流れ＞

・現状、新車販売時の下取車は半数がHonda車で、半数がHonda車以外である。

Honda車は2店舗ある<u>ホンダ系中古車拠点</u>にて販売

（直　販）

⇒　業販は薄利にて流出しているのが現状

利益創出源泉の喪失

他メーカー車は<u>オートオークション等</u>へ

（業　販）

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

中古車事業の強化（2）

＜新車販売時の下取車の流れ＞

Honda車は2店舗ある<u>ホンダ系中古車拠点</u>にて販売

（直　販）

他メーカー車も<u>新規出店予定の中古車センター</u>にて販売

（直　販）

・日々変化するマーケットに柔軟に対応が可能。（ミニバン専門店等）

・メーカー系の中古車店と違い出店地域などの規制を受けない。

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

HONDA ホンダクリオ東葛

平成19年3月期中間決算業績

ホンダクリオ東葛

平成19年3月期中間決算 ハイライト(連結)

(単位:百万円)

	18年3月期 中間期実績	19年3月期 中間期予想	19年3月期 中間期実績	予想対比	前年 同期比
売上高	3,654	3,725	3,274	87.9%	89.6%
経常利益	225	195	149	76.4%	66.2%
当期純利益	127	116	90	77.6%	70.9%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ホンダクリオ東葛

平成19年3月期中間決算　要因分析

業界全体につきましては、当中間期の国内自動車販売台数は2，702，577台（登録車と軽自動車の合計）となり、前期比では3.4%の減少となりました。登録車の落ち込みは前期比7.5%減と大きく、軽自動車の大幅躍進（前期比4.9%増）はありましたが、全体をカバーするまでには至りませんでした。
メーカー別にみますと、ホンダはステップワゴン・エアウェイブのラウンドとセダン・コンパクトカーの苦戦により、販売台数は346，524台となり、対前期比4.2%の大幅な減少となっております。

①.　新車販売部門

新車販売部門は、3月から系列毎の取扱車種制限がなくなり、既存3チャンネルが全車種を販売することが可能となったため、地域における競争が激化、昨年新型車のラウンドと相俟って、販売台数は1，131台（前期比7．3%減）となりました。折からの、原油価格高騰も小型・軽自動車への誘導要因となった感は否めず、台当たり単価が下落し、売上高は20億54百万（前期比15．5%減）で3期ぶりの減収となりました。

②.　中古車販売部門

中古車販売部門は、販売単価の高い直販台数（小売）がほぼ前年並みを維持したことから、売上高は3億66百万円（前期比0.6%増）となりました。

③.　サービス部門

サービス部門は、管理内ユーザーに対する車検・12か月点検などの整備業務の積極的な取り込みを行い、新車の販売時に提案しているペイントシーラント（新車ボディー塗装面保護加工）の利用率が向上したことなどにより売上高は6億35百万円（前期比0.5%増）となりました。

④.　その他部門（ローン、保険）

その他の部門は、保険手数料収入は増加（前期比10.5%増）となりましたが、新車販売部門と連動する登録手数料等の手数料収入及び、割賦受取手数料収入が新車の販売苦戦の影響により、前年を下回ったことで売上高は2億18百万（前期比4.0%減）となりました。

ご注意：　この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

平成19年3月期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	18年3月期 通期(実績)	19年3月期 通期(予想)	増減率
売上高	7,223	6,890	△4.61%
経常利益	430	361	△16.05%
当期純利益	249	216	△13.25%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

HONDA ホンダクリオ東葛

本日はご来場いただきまして
ありがとうございました。

本件に関するお問合せ先

株式会社ホンダクリオ東葛

本社：千葉県松戸市小金きよしヶ丘３－２１－１

電話番号：047-346-1190

ホームページ：http://www.hctk.co.jp